

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170103762		
法人名	株式会社プラス		
事業所名	グループホームあかり岐阜苑 心の間		
所在地	岐阜市大洞1丁目3-4		
自己評価作成日	令和6年12月10日	評価結果市町村受理日	令和7年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170103762-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和7年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各利用者の生活歴や望む一日の過ごし方を尊重し、無理強いすることなく、利用者が自ら自発的に行動できるような声掛けを行い、メリハリある生活を送っていただいています。特養等の大型施設では、直ぐにおむつになったり車いすになる、一日の大半をスタッフの都合で臥床して過ごすことが常になるような方でも、適時休憩を取りながら過ごしていただきます。また、歩行してトイレに行ったり、杖を使用して歩行したりとその方の残存機能を維持できるよう、取り組んでいます。また、食事は全ての工程をスタッフの手作りに拘り、お誕生日や季節のイベントにはデコレーションをして喜んでいただいています。今後は少しずつ、誕生日やイベントにはご家族との関わりを大切にして、家族と入居者の関わりが途絶えてしまうことがないように、取り組んでいきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度は、特に外出に力を入れて取り組んでいる。職員は、利用者との楽しい時間の共有に努め、コロナ禍以降の自粛緩和を支援している。昨春秋口の地域にある県営公園に外出した際には、弁当持参には及ばないまでも、利用者の好物のお饅頭を持参し、大人数での外出を行っている。利用者が、羽を伸ばし、走り回る利用者の様子もあり、道中の車の中でも笑顔あふれる場面が見られた。管理者・職員は、ホームの外に出る必要性と、利用者の日常生活への有効性を実感し、ますますの支援充実を考えている。誕生日の楽しみとして、本人の好きなことをやらせよう支援もある。ケーキを買ってユニット全員でお祝いすることをはじめ、欲しいものを聞き出し、サプライズプレゼントを行ったり、家族の協力で、外出や外食を楽しんでもらっている。今後は、ホームでの個別対応の意欲もある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所と各ユニットの目に付きやすい位置に貼り出しをしている。またカンファレンス時には、その理念に沿ったケアを心掛けるよう話合っている。	法人移行後も、理念を変えず、「あなたの笑顔が見たいから。。」を大切にしている。理念の持つ意味と意義を理解し、自身の支援の振り返りを行えるように、職員会議等、機会ある毎に話し合いを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの蔓延により、地域との繋がりが疎遠となる中で、毎日の利用者との散歩や、出退勤時に道で出会った人々に笑顔で元気よく挨拶をするようにしている。認知症カフェや各種のレクレーションに参加し始めており、地域の活動にも関与し始めている	運営推進会議等で、自治会からは、祭りや運動会等、地域行事への誘いがある。地域から声掛けがあった際には、少人数でも参加できるように努め、地域交流を行っている。認知症カフェ参加も、交流のきっかけとなっている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今まではコロナの蔓延により、運営推進会議も書面開催をしていたが、今年度より運営推進会議の開催を再開している。ご家族や包括支援センターのケアマネや市役所の担当の方に各情報をいただき、ご意見をいただく場として生かしている。	年6回の会議を開催している。地域からの参加が多く、地域情報収集の機会になっている。市役所担当者、地域包括支援センターの参加があり、行政情報や地域高齢者情報を共有している。毎回活発な意見交換があり、質疑応答を通じ、グループホームの役割を啓蒙している。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の各種窓口の職員の方に各利用者様について相談をしたり、運営推進会議にも参加していただきながら、施設の運営状況や日々の利用者様の様子をお伝えするようにしている	運営推進会議に行政担当者、地域包括支援センター両者の参加があり、グループホームの実情理解と共に、様々に情報を共有している。市役所担当部署とは、ホーム運営に関わる相談・報告を通じ、適切に連携している。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通して身体拘束がなぜいけないのか、私たちはどのような視点で利用者を支援する必要があるのかを、できる限り分かりやすい資料を準備して理解しやすいように工夫している。	3か月毎に委員会を開催し、身体拘束の事例検討等を行っている。職員に対しては、委員会や勉強会で正しい知識と理解を推進し、身体拘束を行わない工夫を話し合える環境がある。職員は高い意識で取り組み、現在も事例はない。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通して、虐待にあたる事案や対処法などを話し合っている。また、業務に追われ日々の支援の中で傷つけるような言動があったら、スタッフ同士で注意をし合えるような関係性を大切にしている。	3ヶ月毎に委員会を開催している。委員会や勉強会で虐待を考え、何が虐待にあたるのかを話し合っている。また、職員間で注意をし合える関係性を有し、虐待防止につながっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に利用している利用者は居ないのでそのような支援があることを知らないスタッフもいると思うので、勉強会等でそういった内容も取り入れていくのも良いと思う		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族や利用者の希望を時間をかけて聞くようにしている。その上で必要な説明や同意が必要であれば丁寧に伝え、理解・納得につなげている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には折に触れて電話やメールをして気軽に相談や要望を伝えることができるようにしている。スタッフには良いことも悪いことも伝え、貴重なご意見としてあかりの質に繋がるようにしている	面会等の家族来訪時、電話連絡時等に直接話を聞く機会を作っている。随時の対応として、メールでのやり取りも増えている。聞き取った内容は、職員周知で協議・検討し、ホーム運営や支援内容に反映させている。家族が意見や意向を出しやすいように、ホームからは常に詳細な情報提供を行っている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議として、管理者とユニットリーダーで今後の運営方法や必要な対応を話し合い、スタッフ会議でスタッフに意見を求めたり、連絡帳を通して意見を求めています。	全体会議、ユニット会議、勉強会を毎月実施し、職員の意見表出機会を作っている。法人代表のラウンド時には、直接話機会もある。随時の意見や提案は、申し送りノートを活用し、全職員で共有している。法人代表及び管理者は、聞き取った職員意見を受け止め、ホーム運営に反映させるように努めている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	家族と関わりを持つ中で月次報告を楽しみにしている、あかりさんで良かったという意見をいただくことがある。日々真摯に取り組んでいることが伝わった瞬間であり、スタッフと共有して遣り甲斐につなげている。	職場環境は良好であり、人間関係にも問題はない。何でも話せる環境があり、話し合いの上での決定が常である。法人代表及び管理者と職員の距離は近く、職員一人ひとりの状況把握ができています。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験値の少ないスタッフには、研修や日々の支援を通して力をつけていただき、指導する側もマネジメントの方法を学習できる機会となるので有意義に進めていけるといい	毎月ホーム内勉強会を開催し、職員育成につなげている。外部研修受講についても推奨している。また、法人にEラーニングシステムの導入があり、段階的な教育に活用がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染症の懸念から、積極的な他施設との研修などは実施していないが、管理者研修やスタッフ研修の内容を密なものにして、一貫した質の向上に努めている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔ながらの考えややり方を価値観として持ってみえる利用者もいる。その価値観を尊重する形で支援をしているし、「娘」「嫁」世代のスタッフが居るので、楽しく家族のような関係が構築されている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフを気遣い遠慮をされる利用者が居るのも事実。言葉かけや行動にそう思わせてしまう節があるという事なので、会議や普段のスタッフ同士のコミュニケーションの中で伝えあえるようにしている	利用者の意向や希望は、日常支援のかかわりの中で聞き取っている。担当制を作らず、利用者全員を全職員が対応し、利用者の思いを汲み取っている。毎月のユニット会議で職員の気付きや意見・提案を集約し、介護支援専門員に情報が届く仕組みがある。支援内容の変更・更新の提案も職員から出ている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス会議や、日々の支援の中で各スタッフが発言に意見をいえる状態になるのが望ましい。皆で話し合った意見や対応を最終的には家族に納得して同意を得るための方法として必要不可欠な作業ととらえている。	毎月のモニタリング実施で、利用者の状態と状況把握している。介護計画更新時にアセスメントを取り直し、現状に即した介護計画を作成している。本人・家族意向、集約した職員意見を併せ、支援内容を検討し、介護支援専門員が介護計画を立案している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	夜間の様子・日中の様子、それぞれにわからない部分があるので、介護日誌やカンファレンスを通して皆が共通の対応ができるようにする。24時間繋がるケアの実践を目指している	詳細な個別記録に努めている。記録に介護計画の内容を記し、介護計画の支援内容に沿ったサービス提供の記録が確認できるようになっている。振り返りの際、誰が見ても解る記録、本人の暮らしの継続が解る記録となるように、記録方法の指導を行っている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナをいつまでも怖がってはいへない。家族と利用者様の関係が途絶えることが無いような取り組みとして、外出や外泊を通してご家族との関係を構築していただいている。メールや電話を通して様子をご家族にお伝えすることで、面会や外出をされるご家族が増えたように思う	「家族ができない事の支援提供」を意識している。ホームで対応できる事とできない事を明確にし、家族に伝えている。利用者一人ひとりのやりたい事、やりたいことの実現を目指し、利用者の希望を聞き取りを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握や情報を入手していないため、各利用者が生活の質を向上させることができるような発掘をしていきたいとおもう		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携病院のみどり病院により、月に2回の医師の往診があり、体調管理をしている。また、すこやか診療所の看護師により、緊急時には24時間迅速な対応が可能です	ホーム協力医の月2回の訪問診療を支援している。医療連携の訪問看護師が週1回来訪し、利用者の健康管理を行っている。看護師は緊急時の24時間の対応が可能になっている。協力医医師との連携も良く、適切な医療支援となっている。専門医等の受診は、原則家族対応をお願いしている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携病院の医師とは勿論、他の医療機関の相談員や病棟の看護師に協力を仰ぎ、入院をすれば状況把握に努めている。入院が長期となれば身体的な状態も悪くなるので、退院が決まれば、できるだけ早期の退院を心がけている	医師との連携はもちろんのこと、相談員や看護師との連携、関係づくりもできている。状態変化の都度に情報共有を図り、退院に向けての話し合いを行い、本人の状態維持に配慮して、早期の受け入れに対応している。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の関係性は個々の家族の在り方によって違うため、終末期における利用者への対応方針は意見が分かれることが多い。遠慮をせず、生活そのものを支援してきた立場として意見が言えることも必要と思います。	入居契約時に、終末期支援にかかわるホームの方針を説明し、同意を得ている。本人と家族の意向に沿った、ホームのできる限りの対応を基本にしている。看取りまでの希望は多く、本人の状態変化の都度、医師を交えて話し合いを重ね、その後の方針を決定している。ホームの対応の限界を明確にし、終末期支援を実践している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を各ユニットに配布して、いつでも確認ができるようにしている。急変時や事故の際に対応が迅速に行えず、惨事となることもあると思うので、会議や勉強会を通して周知していきたい		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を経て年2回、避難訓練を行っています。災害時のBCPの内容を話し合い研修を行った。災害時に自治会と繋がり協力をしていただけたよう、広報紙を配布があった時に感じの良い挨拶で関係を作っている	年2回の避難訓練を実施している。できる限り利用者に参加してもらい、避難方法や誘導、避難経路を確認している。消防署の協力を得て、通報訓練も行っている。BCPを作成し、訓練、研修等を推進し、ホームの実際に合ったBCPとなるように、内容の更新を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の考え方や生活歴を基本情報や日々の会話の中で知り、伝え方、言葉かけ等その方なりの考え方や性格に合った対応をしています	毎月の勉強会で、認知症介護に関わる知識と理解を深め、認知症理解の基で、利用者一人ひとりの対応を考えている。本人の性格や特性を考慮し、不快な思いを抱かせない対応を話し合い、職員同対応を基本に支援している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方なりの生活歴や生きて来られた過程を知ることとその人らしい生活を送っていただける糸口が見つかる。皆で話、周知することで各利用者様一人一人に最善の支援ができることが望ましい		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者それぞれにやりたいことや過ごし方があるのは当然なので、あまりこちらの流れで誘導するのは良くない。ルーティーンではなく、いつも違った過ごし方で過ごして欲しい		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフが作る食事の匂いに誘われて「美味しそう。何か手伝うよ」という声が聞かれる。一緒に盛り付けをしたり、料理が好きだった利用者はキッチンと一緒に入り料理を楽しんでいる	3食手作りの温かい家庭料理を提供している。冷蔵庫の中の食材で、その日のメニューを決めている。メイン料理と副菜2品を基本とし、旬の食材にこだわった、見た目の彩りにも配慮した食事で、利用者の食の楽しみに応えている。季節の行事食、特別食の対応もある。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食の細い方には好まれるものをメニューに取り入れたり、身体状況に合わせてとろみあん、水分にはトロミを付ける等、工夫をしてできるだけ多く摂取できるようにしている		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ブラシや口腔ウェティの併用等、その方の状態に応じて道具を検討している。介助が必要な利用者に対しては介助をして口腔内を清潔に保てるよう努力しています	歯科医の口腔ケア指導を受け、毎食後の歯磨きを支援している。介助が必要な利用者には、職員が適切にサポートしている。口腔内の清潔の大切を職員はよく理解し、実践している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿量や排尿間隔を把握することが支援上必要な利用者には、排泄チェック表を導入し全員が把握し、早めの誘導を行うことでトイレでの排泄ができるようにしている		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日や人数は両ユニットの買い物等の関係上、ある程度は決めることが必要となるのが現状ですが、日曜日には希望者は入浴していただいています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本は各自、好きなように過ごしていただいている。でも夜間の安眠にもつながるよう、できるだけ日中はゲームや体操の声掛けを行い参加していただいている		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があったら介護日誌に記入するようにしている。薬の効果や副作用等、知っておいたほうが良いことは処方箋で確認できるようファイルに閉じていつでも確認ができるようにしている	配薬は職員が対応している。薬局に薬を受け取りに行き、服薬セットを行っている。内服までに、2重、3重にチェックし、誤薬等が起きないように仕組みを作っている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	いつまでも元気に動けるようにと、自ら進んで体操や歌を歌う等、努力をされていたり、料理が好きだったからと言われ、スタッフと一緒に食事を作ったりしている。「人助けがしたい」「自分の仕事としたい」様々な思いを持たれており、できる限り尊重するよう支援している	家事の得意な利用者は、調理補助や配膳、後片付け等、毎食の役割発揮で張り合いを持っている。利用者ごとに、洗濯物を干したり畳んだり、掃除をしたり、本人の興味のあることや得意なことで役割を持っている。編み物等の趣味を継続、テレビ視聴の希望聞き取り等、楽しみごとの支援にも配慮している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今まではコロナの蔓延により自粛してきたが、今年に入って10月から外出レクリエーションも実施した。日々の散歩は勿論、ご家族に働きかけることで外食をしたり、面会時に散歩などを検討されるご家族様もみえる	コロナやインフルエンザ等、感染の状況を確認し、柔軟に対応している。家族外出や外泊も、感染状況を見て自由にしている。日課の散歩の継続、敷地内の戸外での日光浴等、外に出る機会を作っている。行事外出の再開も始まっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な物に関しては家族に相談をして購入依頼をしている。買い物ツアーや、喫茶店・外食に行った時に、自分で欲しいものを選んで、支払うまでの一連の作業は情緒の安定や生活の質の向上にも繋がる。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族の方から電話が入ることがある。利用者と電話を変わり、話をしてもらい喜んでいただいている。疎遠となられたお孫さんと交流を図り、年賀状を送ってくださり、喜んでおられた。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じたりリビングや居室の温度に注意している。また、季節の壁飾り等、利用者で作成した作品を壁に張ったり飾ったりして、家の様な空間づくりに努力をしている	隅々まで掃除が行き届いた清潔保持がある。日中時間帯を共有空間で過ごす利用者が多く、レクリエーションや作品づくり等で楽しみ、和気あいの雰囲気がある。壁には作品を掲示し、利用者や来訪者の目を楽しませている。明るさ、温度、臭気等、高齢者の生活空間として何ら問題は感じられない。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはくつろげるよう、ソファを置いている。気の合う人と会話を楽しんでいる。一人でくつろげるよう場所はリビングの作りからして難しい。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分が昔に家で使っていた家具を持ち込まれていたりしている。一緒に作った作品や家族の写真等を飾るのも楽しみながら雰囲気作りができるかもしれない		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が進む導線には手すりが設置しており、トイレにも安全に配慮して手すりが設置されているので、スタッフの介助なしに安全に排泄をすることが可能になっている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	2190100087		
法人名	株式会社プラス		
事業所名	グループホームあかり岐阜苑 真の間		
所在地	岐阜市大洞1丁目3-4		
自己評価作成日	令和6年12月10日	評価結果市町村受理日	令和7年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170103762-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1
訪問調査日	令和7年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各利用者の生活歴や望む一日の過ごし方を尊重し、無理強いすることなく、利用者が自ら自発的に行動できるような声掛けを行い、メリハリある生活を送っていただいています。特養等の大型施設では、直ぐにおむつになったり車いすになる、一日の大半をスタッフの都合で臥床して過ごすことが常になるような方でも、適時休憩を取りながら過ごしていただきます。また、歩行してトイレに行ったり、杖を使用して歩行したりとその方の残存機能を維持できるよう、取り組んでいます。また、食事は全ての工程をスタッフの手作りに拘り、お誕生日や季節のイベントにはデコレーションをして喜んでいただいています。今後は少しずつ、誕生日やイベントにはご家族との関わりを大切にして、家族と入居者の関わりが途絶えてしまうことがないように、取り組んでいきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所と各ユニットの目に付きやすい位置に貼り出しをしている。またカンファレンス時には、その理念に沿ったケアを心掛けるよう話合っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの蔓延により、地域との繋がりが疎遠となる中で、毎日の利用者との散歩や、出退勤時に道で出会った人々に笑顔で元気よく挨拶をするようにしている。認知症カフェや各種のレクリエーションに参加し始めており、地域の活動にも関与し始めている		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今まではコロナの蔓延により、運営推進会議も書面開催をしていたが、今年度より運営推進会議の開催を再開している。ご家族や包括支援センターのケアマネや市役所の担当の方に各情報をいただき、ご意見をいただく場として生かしている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の各種窓口の職員の方に各利用者様について相談をしたり、運営推進会議にも参加していただきながら、施設の運営状況や日々の利用者様の様子をお伝えするようにしている		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通して身体拘束がなぜいけないのか、私たちはどのような視点で利用者を支援する必要があるのかを、できる限り分かりやすい資料を準備して理解しやすいように工夫している。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通して、虐待にあたる事案や対処法などを話し合っている。また、業務に追われ日々の支援の中で傷つけるような言動があったら、スタッフ同士で注意をし合えるような関係性を大切にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に利用している利用者は居ないのでそのような支援があることを知らないスタッフもいると思うので、勉強会等でそういった内容も取り入れていくのも良いと思う		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族や利用者の希望を時間をかけて聞くようにしている。その上で必要な説明や同意が必要であれば丁寧に伝え、理解・納得につなげている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びにに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には折に触れて電話やメールをして気軽に相談や要望を伝えることができるようにしている。スタッフには良いことも悪いことも伝え、貴重なご意見としてあかりの質に繋がるようにしている		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議として、管理者とユニットリーダーで今後の運営方法や必要な対応を話し合い、スタッフ会議でスタッフに意見を求めたり、連絡帳を通して意見を求めています。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	家族と関わりを持つ中で月次報告を楽しみにしている、あかりさんで良かったという意見をいただくことがある。日々真摯に取り組んでいることが伝わった瞬間であり、スタッフと共有して遣り甲斐につなげている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験値の少ないスタッフには、研修や日々の支援を通して力をつけていただき、指導する側もマネジメントの方法を学習できる機会となるので有意義に進めていけるといい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	感染症の懸念から、積極的な他施設との研修などは実施していないが、管理者研修やスタッフ研修の内容を密なものにして、一貫した質の向上に努めている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔ながらの考えややり方を価値観として持ってみえる利用者もいる。その価値観を尊重する形で支援をしているし、「娘」「嫁」世代のスタッフが居るので、楽しく家族のような関係が構築されている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフを気遣い遠慮をされる利用者が居るのも事実。言葉かけや行動にそう思わせてしまう節があるという事なので、会議や普段のスタッフ同士のコミュニケーションの中で伝えあえるようにしている		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス会議や、日々の支援の中で各スタッフが活発に意見をいえる状態になるのが望ましい。皆で話し合った意見や対応を最終的には家族に納得して同意を得るための方法として必要不可欠な作業ととらえている。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	夜間の様子・日中の様子、それぞれにわからない部分があるので、介護日誌やカンファレンスを通して皆が共通の対応ができるようにする。24時間繋がるケアの実践を目指している		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナをいつまでも怖がってはいへない。家族と利用者様の関係が途絶えることが無いような取り組みとして、外出や外泊を通じてご家族との関係を構築していただいている。メールや電話を通して様子をご家族にお伝えすることで、面会や外出をされるご家族が増えたように思う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握や情報を入手していないため、各利用者が生活の質を向上させることができるような発掘をしていきたいとおもう		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携病院のみどり病院により、月に2回の医師の往診があり、体調管理をしている。また、すこやか診療所の看護師により、緊急時には24時間迅速な対応が可能です		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携病院の医師とは勿論、他の医療機関の相談員や病棟の看護師に協力を仰ぎ、入院をすれば状況把握に努めている。入院が長期となれば身体的な状態も悪くなるので、退院が決まれば、できるだけ早期の退院を心にかけている		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の関係性は個々の家族の在り方によって違うため、終末期における利用者への対応方針は意見が分かれることが多い。遠慮をせず、生活そのものを支援してきた立場として意見が言えることも必要と思います。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を各ユニットに配布して、いつでも確認ができるようにしている。急変時や事故の際に対応が迅速に行えず、惨事となることもあると思うので、会議や勉強会を通して周知していきたい		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を経て年2回、避難訓練を行っています。災害時のBCPの内容を話し合い研修を行った。災害時に自治会と繋がり協力をしていただけるよう、広報紙を配布があった時に感じの良い挨拶で関係を作っている		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の考え方や生活歴を基本情報や日々の会話の中で知り、伝え方、言葉がけ等その方なりの考え方や性格に合った対応をしています		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方なりの生活歴や生きて来られた過程を知ることでその人らしい生活を送っていただけの糸口が見つかる。皆で話、周知することで各利用者様一人一人に最善の支援ができることが望ましい		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者それぞれにやりたいことや過ごし方があるのは当然なので、あまりこちらの流れで誘導するのは良くない。ルーティーンではなく、いつも違った過ごし方で過ごして欲しい		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフが作る食事の匂いに誘われて「美味しそう。何か手伝うよ」という声が聞かれる。一緒に盛り付けをしたり、料理が好きだった利用者はキッチンと一緒に入り料理を楽しんでいる		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食の細かい方には好まれるものをメニューに取り入れたり、身体状況に合わせてとろみあん、水分にはトロミを付ける等、工夫をしてできるだけ多く摂取できるようにしている		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ブラシや口腔ウェティの併用等、その方の状態に応じて道具を検討している。介助が必要な利用者に対しては介助をして口腔内を清潔に保てるよう努力しています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿量や排尿間隔を把握することが支援上必要な利用者には、排泄チェック表を導入し全員が把握し、早めの誘導を行うことでトイレでの排泄ができるようにしている		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日や人数は両ユニットの買い物等の関係上、ある程度は決めることが必要となるのが現状ですが、日曜日には希望者は入浴していただいています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本は各自、好きなように過ごしていただいている。でも夜間の安眠にもつながるよう、できるだけ日中はゲームや体操の声掛けを行い参加していただいている		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があったら介護日誌に記入するようにしている。薬の効果や副作用等、知っておいたほうが良いことは処方箋で確認できるようファイルに閉じていつでも確認ができるようにしている		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	いつまでも元気に動けるようにと、自ら進んで体操や歌を歌う等、努力をされていたり、料理が好きだったからと言われ、スタッフと一緒に食事を作ったりしている。「人助けがしたい」「自分の仕事としたい」様々な思いを持たれており、できる限り尊重するよう支援している		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今まではコロナの蔓延により自粛してきたが、今年に入って10月から外出レクリエーションも実施した。日々の散歩は勿論、ご家族に働きかけることで外食をしたり、面会時に散歩などを検討されるご家族様もみえる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な物に関しては家族に相談をして購入依頼をしている。買い物ツアーや、喫茶店・外食に行った時に、自分で欲しいものを選んで、支払うまでの一連の作業は情緒の安定や生活の質の向上にも繋がる。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族の方から電話が入ることがある。利用者と電話を変わり、話をしてもらい喜んでいただいている。疎遠となられたお孫さんと交流を図り、年賀状を送ってくださり、喜んでおられた。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じたりリビングや居室の温度に注意している。また、季節の壁飾り等、利用者と作成した作品を壁に張ったり飾ったりして、家の様な空間づくりに努力をしている		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはくつろげるよう、ソファを置いている。気の合う人と会話を楽しんでいる。一人でくつろげるよう場所はリビングの作りからして難しい。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分が昔に家で使っていた家具を持ち込まれていたりしている。一緒に作った作品や家族の写真等を飾るのも楽しみながら雰囲気作りができるかもしれない		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が進む導線には手すりが設置しており、トイレにも安全に配慮して手すりが設置されているので、スタッフの介助なしに安全に排泄をすることが可能になっている		